

2024 年 4 月 15 日
助成番号:23-S-002

庭野平和財団 御中

所在地 新宿区西早稲田 2-3-18 アバコビル 5F
団体名 特定非営利活動法人
国際協力 NGO センター
代表者名 鬼丸昌也
連絡先 03-5292-2911

事業終了報告書

貴助成金をいただき、下記の通り活動を実施しましたのでご報告いたします。

1. 活動の名称

HAPIC (課題解決の先へ HAPPINESS IDEA CONFERENCE)

2. 活動の実施日、または期間

実施期間:2023 年1月～2024 年 3 月(準備、振り返り期間を含む)

実施日程:2023 年 11 月 11 日(土)10:00-19:30 開催

会場: KFC Hall&Rooms(東京都墨田区横網 1-6-1 国際ファッションセンタービル)

オンライン:上記日程の当日及び 11 月下旬～1 月上旬にかけて、一部のセッションのオンラインでの実施及びアーカイブ配信を行った。

3. 活動の目的とその背景

グローバルな社会課題解決に取り組む多様な人たちの「出会いの場を創出することが目的。第一に、情報・人との「出会い」を通して、新しいアイデアや元気をもらい、インスピレーションを得る場をつくるために開催した。また参加者が HAPIC で学んだことを自組織での変革に生かすことも目指す。第二に、複雑で変化が速く、情報が溢れる今の社会の中で、必要な情報と分断されている個人をつなぎ、日本のグローバルな(特にアジアの)社会課題解決のコミュニティの構築につなげた。

4. 活動内容と方法、実施経過

■概要

対面での HAPIC 開催は、3年ぶりとなり、今回は対面&オンラインの初のハイブリッド形式で開催した。2021 年、2022 年とオンラインでの開催が続いたが、COVID-19 の

感染症法上の位置付けが5類に移行されたこともあり、対面での開催を決定した。「紛争地で活躍する NGO リーダーが見つけた平和のつくり方」と題したオープニングセッションでは、イラクからの中継を含む3名の NGO のリーダーが、世界各地で発生している紛争に対して私たちはどう向き合っていくのかについて語り合った。

その後、「平和」「テクノロジー」「共生社会」「パートナーシップ」「気候変動」「サステイナブル」「次世代」などをテーマに、その後、5つのブレイクアウト・セッションを同時開催した。「対話の力～内なる変化が世界を変える～」をテーマに、参加者全員が参加できる形式で実施したクロージング・セッションとあわせて、合計 21 のセッションを開催した。ウクライナから日本に避難された後、プラン・インターナショナル・ジャパンで勤務を開始したアンナ・シャルホロドウスカーさんも登壇するセッションなど、英語のみでのセッションも2つ開催し、よりグローバルな視点を取り入れた構成となった。

HAPIC 実施内容の詳細は、別紙の「HAPICHAPIC2023 開催概要」にセッションの内容、登壇者、参加者のアンケートをまとめた。

■オープニングセッションの内容

オープニングセッションでは、「紛争地で活躍する NGO リーダーが見つけた平和のつくり方 ～今、平和のためにできること～」と題し、NPO 法人 Reach Alternatives (REALs) 理事長の瀬谷ルミ子さん、NPO 法人アクセプト・インターナショナル代表理事/JANIC 理事の永井陽右、NPO 法人テラ・ルネッサンス創設者・理事/JANIC 理事長の鬼丸昌也、ジャーナリストの堀潤さんが登壇し、語り合いました。

瀬谷さんは、アフリカでの経験から、「必ずしも平和の完成形ではなくても、バランスがとれていれば安定をもたらすことが可能だ。平和の形を押し付けるのではなく、当事者たちの中で可能な範囲を手探りしながら築いていけばいい」と、話した。

イラクからオンラインで参加した永井は、「社会課題の解決は難しい、絶望的だと多くの人が考える。自分なんかは何ができるのか、と思ってしまう。でも、何ができるか、ではなく、何をすべきか、という考え方をしたい。そもそも難しいことをやろうとしている。わかったうえで、絶望しない。だれもできていないのだから、やり続けるだけだ」と、話した。

また、鬼丸は、「できるだけ小さな変化に注目するようにしている。ささやかな変化を見逃さない力が我々にあるかどうか、が大事だ。人がもともと励まされるのは、人が起こした変化を見た時だ。私たちは微力だが、微力であることに甘んじてはいけない」と、述べた。

堀さんは、ジャーナリストとしてアフガニスタンやスーダン、シリア、ルーマニアなどを取材した経験から、「平和が遠くに感じられる今こそ、評論ではなく、現場でさまざまな NGO が淡々と社会課題に取り組んでいる姿を、メディアはもっと伝えるべきだと思う」と、述べた。

■ブレイクアウト・セッション(抜粋)

21 のブレイクアウト・セッションのうち、3つのセッションの内容を抜粋してその内容を報告する。

(1)「Synergy Talks: 企業と NGO の対話でつくる公正な未来」

JANIC/THINK Lobby では、コーポレート・ソーシャルジャスティス(CSJ)プロジェクトとして、「公正な社会の実現に向けた対話のための企業行動チェックリスト」を作成している。このセッションでは、CSJ プロジェクトリサーチャーの敦賀和外氏と、同プロジェクトコーディネーターの土井陽子が、冒頭でチェックリストの内容やその背景を説明した。

チェックリストは、「人権」「環境・気候変動」「コンプライアンス・公正な事業慣行」のテーマに基づく 10 の行動領域について、自社の企業活動が公正な社会の実現に向けて行われているかどうかを確認する仕組みだ。

続くセッションには、THINK Lobby の若林秀樹、株式会社 IHI の人事部 DE&I グループ主査である葉山木綿さん、「世界の医療団日本」事務局長の米良彰子さんが登壇した。

若林は、「企業にも、公正な社会の実現に向けてなすべきこと(人権デューデリジェンス)がある、という認識に基づいて、ビジネスと人権というテーマを考えたい。そこには企業の人権リスクマネジメントや社会的責任という視点もあるが、新しいビジネスチャンスも生まれるはず。そして、企業の責任だというだけでなく、私たち市民社会もそこで一緒に取り組んでいきたいと考えている」と、述べた。

CSJ の企業行動チェックリストのパイロット評価に参加した IHI の葉山さんは、パイロット評価に参加した目的として、「専門性の高い市民社会の皆さんの視点と問題意識を、事業に反映すること」と、「企業と NGO が社会課題の解決という共通の目標を持つのであれば、当初から一緒に取り組んだほうが効率的だと考えた」と、話した。

一方、米良さんは NGO の立場から、「企業にとってリスクだから、ビジネスと人権の課題に取り組むのではなく、よりよい社会づくりという積極的な理由で取り組んでほしい」と指摘した。

チェックリストは、企業が自身の、課題に対する「現在地」を知り、様々な関係者と改善点を知るための「対話」を開始する入口です。セッションでは、企業側からチェックリストにある「10 の行動領域」の重要性は十分に認識している、という姿勢が示される一方で、企業と市民社会との「対話」の難しさも指摘された。

この点については、「単なる対話ではなく、そのあとも関与していく、変えていく行動が大事。そう考えると単年度では終わらない中長期にわたる取り組みを前提に対話を進めたいと考える時がある」、「企業と市民社会が、お互いに先入観を持たず、対等なパートナーとして問題意識を具体的に共有していくことが必要だ」などの考え方が示された。

(2)「NGO の Next Step: G7 広島サミット／Civil(市民社会組織)7 サミットの課題分析と NGO の役割」

このセッションでは、「NGO の Next Step: G7 広島サミット／Civil(市民社会組織)7 サミットの課題分析と NGO の役割」と題して、NPO 法人 CWS Japan の小美野剛・事務局長、NPO 法人ワールド・ビジョン・ジャパン/JANIC 理事の木内真理子事務局長、JANIC アドボカシーオフィサーで THINK Lobby の堀内葵・副所長が、C7 サミットから

見えた NGO の役割や将来進むべき方向性などについて話し合った。

セッションに先立ち、外務省国際協力局民間援助連携室の工藤博・首席事務官があいさつに立ち、「C7 のプロセスでは、外務省と市民社会が緊密に連携してきた。外交青書にも、市民社会とのもう一つの連携ということでコラムの形で取り上げる予定だ。改定された開発協力大綱でも市民社会は戦略的パートナーと位置づけられており、NGO との連携は一層密になることが期待される」と、述べた。

東京で今年4月 13、14 日に開かれた「C7 サミット」では、その前日に、首相官邸で「C7 コミュニケ(政策提言書)」を G7 議長である岸田文雄首相に手渡し、G7 首脳コミュニケへの反映と、市民社会の提言内容の実現を要請した。

堀内は「市民社会からの提言が、G7 首脳会合にどれだけ反映されたかを分析しているが、ほとんど反映されていないと感じた。市民社会の声を届けるという意味ではまだ力が及ばなかった」と、率直な感想を述べました=写真。そして、「G7 が日本で開かれる時だけ、アドボカシーに取り組むという動き方だけで良いのか」と、話した。一方で堀内は、政府とのパートナーシップは、前回 G7 が日本で開かれた 7 年前に比べて「かなり強化されたと思う。経済的支援を含めて、C7 のプロセスには様々な支援を外務省からいただいた。G7 サミットの一部としてさまざまなステークホルダーの声を反映させようとする姿勢を感じた」と、述べた。

C7 には、G7 以外の国を含め、75 カ国の 700 名以上が携わって政策提言を作成しました。この点は「C7 プロセスの大きな特徴」としながらも、堀内氏は「それぞれがどのぐらいオーナーシップをもって取り組んだのか、という点では疑問が残る」と、指摘した。

木内は、政策提言書が G7 サミットでの議論にどれだけ反映されたかについて、「課題認識と論理において共有できている部分は増えていると思うが、それをどう実践していくかについて、具体的なコミットメントがない。市民社会組織は、課題認識を持つだけでなく、どう実践するか、資金や人材をどのように持つか、といったことを各ステークホルダーと話し合えるまで成熟していると思う」と、述べた。

小美野氏は、日本の NGO 観がどのように変わってきたか、という点について、「日本の NGO セクターは過渡期にある」と、指摘した。「東日本大震災の時に比べると成長したが、今後の成長を考えるうえで重要な点がある。それは、日本国内の NGO セクターの予算獲得競争が激化していることだ。国内の『パイ』を大きくする努力も必要だが、グローバルな競争に日本の NGO も出ていくべきだと思う。ただ、グローバルでリーダーシップをとれている NGO は少ない」と、述べた。小美野氏は、日本人が世界で活躍するために必要なこととして、「ビジョンが明確であること。そのビジョンをみんなに見せることができるコミュニケーション力。先見性が高く、適切な投資先を見極める勇気と能力があること」を挙げた。日本の NGO が目指すべき方向性について小美野氏はさらに、「テーマ別のプロフェッショナルリズムを磨くプラットフォームになれるかどうかが重要だ」と、指摘しました。木内氏は、「組織の基盤強化が重要。お金、人、組織。そこがしっかりしないと、リーダーシップも生まれない。組織力を持った NGO が増えることが大切だ」と、述べ、堀内氏は「キーワードはパートナーシップだ。戦略的なパートナーをそれぞれの団体が自身の分野で見つけることで、活動がより広がり、強化される」と、述べた。

セッションの最後は、参加者が数名のグループになり、「NGO としてこうありたいと思う姿」や「これから強化したいと思う資質」について意見交換をしました。短時間ではありましたが、会場では活発な意見が交わされた。

(3) 支援事業の現場で宗教ができること～開発・紛争・災害支援で平和をつくる～

UNHCR、世界銀行、WHO、ユニセフ等の国連機関が宗教コミュニティとの連携の意義に言及するなど、近年、世界ではグローバル課題の解決に向けた宗教の役割に注目が集まっている。このような世界的動向に比べて、日本においては、一般社会はもちろん、行政、人道支援団体、あるいは宗教コミュニティの中であっても、宗教の役割の理解は十分とは言えないのではないかと。そこで、本セッションでは、海外や日本における宗教者との連携の事例を題材として、支援事業の現場で宗教の果たしうる役割とは何かについて考えた。

登壇者は篠原祥哲さん(公益財団法人世界宗教者平和会議日本委員会事務局長・アジア宗教者平和会議事務総長)、大菅俊幸さん(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会専門アドバイザー)、西島恵さん(特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン支援事業部シニア・プログラムコーディネーター)、大森功一さん(世界銀行 東京事務所 上級対外関係担当)、長下部穰さん(特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン信仰と開発担当)の4名を招いた。

WVJ では、バングラデシュのジェンダーに基づく暴力(GBV)事業においてイスラム教リーダーと連携を活動の一つに取り入れている。なぜなら、GBV の原因の一つに、宗教的伝統による慣習があるからである。地域で信頼を得ている宗教リーダーに啓発や発信の担い手となってもらうことで、地域でのジェンダー平等の理解の深化・拡大が報告されている。

SVA は、東日本大震災支援活動において曹洞宗の僧侶と連携した。主に、炊き出し部隊、移動図書館サポート、避難所の提供、また傾聴等の活動である。とくに傾聴活動は、宗教リーダーだからこそ可能な貢献である。これらの活動の成果は行政に認められ、僧侶に対する期待は高まっている。

WCRP は、ウクライナ紛争の和解に向けた宗教外交に取り組んでいる。特に、日本事務所は紛争地から離れていることなどの利点を活かし、東京平和円卓会議の開催が可能となった。宗教が紛争の大きな原因の一つとなっている国々では、このような外交の効果は決して小さくない。今後も、持続的な対話を継続する。

世界銀行では、予てよりグローバルな課題の解決を目指した宗教リーダーの役割に注目してきた。コロナで中断をしたが、今後も重要項目の一つとしたい。日本の FBO には、日本語のみならず英語での発信も期待したい。

今後は、FBO 情報交換会として、引き続き、国際協力、支援現場における宗教の特性・意義・立ち位置とは何かについて研鑽し合い、FBO としての強みと弱みをあきらかにする。

こうした学び合いから学んだものを、それぞれの FBO 活動の実践の中で役立たせていく。また相応しい方法で、対外的にも発信をする。発信の方法について検討する。

成果として、登壇者の間での交流は確実に深まった。ただ、テーマに関心のある人

の間での交流を広げるための質疑・応答の時間を十分に確保できなかった。マクロ・ミクロ、海外・日本、と特徴ある事例を紹介できたことにより、参加者の間で宗教の役割の具体的なイメージを持つ助けができた。

■ブース出展団体

ブース出展では、参加者が組織運営・資金調達のヒントを得られるよう、NGO/NPOの社会課題解決をサポートする下記の専門企業・組織ブースが8団体出展をした。

- ・NPO 法人 ETIC.
- ・特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム
- ・Syncable (株式会社 STYZ)
- ・公益財団法人日本非営利組織評価センター
- ・認定 NPO 法人日本ファンドレイジング協会
- ・株式会社パデコ
- ・特定非営利活動法人 NPO サポートセンター
- ・特定非営利活動法人セイエン

■学生アイデアコンテスト概要

初の試みとして、学生アイデアコンテストを実施した。「スマートフォンを活用した平和へ導くアイデアは？」というテーマに対して全国から寄せられた 153 作品の中から、「HAPIC2023」の表彰式にて、最優秀賞 1 点、優秀賞 1 点、特別賞 2 点を発表した。

また今回、学生アイデアコンテストにあわせて、今話題の社会活動家と共にアイデアを生み出すタイアップ企画(ワークショップ)も開催した。第 1 弾は、9/26 (火)にオンラインにて、ゲストに青木 弘 氏(Peace is 代表取締役・戦場フォトグラファー)、第 2 弾はグローバルフェスタで 10/11(日)でゲストにルミコ・ハーモニー氏(LITTLE ARTISTS LEAGUE 代表理事)を迎え、開催した。ゲストトークを踏まえながら、自由にアイデアを考えることができ、ワークショップ内で生まれたアイデアは、そのまま HAPIC2023 学生アイデアコンテストへの応募が可能とした。

- ・最優秀賞「撮って、食べて、社会課題解決へ」 日本大学 稲葉爽空
- ・優秀賞「ミナカジ〜家族みんなで火事〜」 和歌山大学 石橋孝太郎、和歌山大学大学院 小幡和樹、山田大稀
- ・特別賞「RELIGIO QUEST [レリギオ クエスト]」 学習院大学 橋本梨那
「おし活(おそうじ活動)」 福岡デザイン&テクノロジー専門学校 城戸俊介

- ・第 1 回 HAPIC2023 学生アイデアコンテスト入賞作品

<https://haptic-contest.jp/>

- ・企画協力:特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)、
PEACEis_LITTLE ARTISTS LEAGUE <https://www.littleartistsleague.org>

・広報協力:認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン、公益財団法人かめのり財団

・HAPIC2023 学生アイデアコンテスト事務局 (株)ライノ・コネクト

・審査員:鬼丸 昌也 (JANIC 理事長/NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事)、永井 陽右 (JANIC 理事/NPO 法人アクセプト・インターナショナル代表理事)、渡部 カンコロンゴ清花 氏 (NPO 法人 WELgee 代表理事)

■HAPIC 参加者数(対象者数):389 人(リアル会場参加 166 名、オンライン参加者 223 人*)

*オンラインは延べ人数

▶参加セクター分類:NGO/NPO(49%)、企業(18%)、政府・国際機関(4%)、学生(9%)、研究機関・大学(3%)、財団(6%)、自治体(1%)、メディア他からの参加があった。

*参加費:1,000 円～10,000 円(申込時期、属性により区別)

■セッション登壇者数:67 人(NGO、企業、行政関係者等)

■助成:MRA ハウス、大竹財団、日本労働組合総連合会、庭野平和財団、立正佼成会一食平和基金

■協賛:ETIC、NPO サポートセンター、ジャパン・プラットフォーム、真如苑、Syncable (STYZ)、セイエン、日本非営利組織評価センター、日本ファンドレイジング協会、パデコ、妙智會

■協力:EMA、らーのろじー、ライノ・コネクト

5. 活動の成果

・グローバル社会課題解決の最前線で活躍するスピーカーによる 21 のセッションの実施を通じて、最新情報を提供した。

・NGO・NPO と支援・連携・サービスを提供する組織のブース出展を通じて、参加した NGO/NPO の組織強化につなげた。

・レセプション、交流スペースなどを通じて、参加者・参加団体のネットワーキングが強化された。

・学生アイデアコンテストを通じて、社会課題解決に関心の高い若者の育成に貢献した。

6. 今後の課題

・JANIC 事務局の運営キャパシティや開催資金の負担が大きい点について、開催規

模と形態については見直す。

・HAPIC の企画・運営を JANIC 事務局が主に担う形態からプログラムの充実化と、多様なステークホルダーの参加とネットワーキングの拡充に向けて、今後は、実行委員会形式で、JANIC の会員やパートナー団体など多様なステークホルダーがともに作りあげる形式に変更していきたいと考えている。

・今回、若者の参加増えた一方で、企業の参加者数が伸びなかった。その理由は、土曜日に開催したことも一因と思われる。今後は、参加していただきたいターゲットに合った企画と開催日時を検討する。

7. その他(所感など)

当日運営と制作に委託業者のライノ・コネクトにご協力をいただくことによって、スムーズなハイブリッド開催が可能になった。また、ライノ・コネクトの協力もあり、学生アイデアコンテストという新しい企画をはじめて実施することができた。今後も、多様なステークホルダーと協力関係を築くことにより、HAPIC のプログラムや運営の充実化がはかれると考えている。

8. 参考資料

- ・HAPIC ホームページ、パンフレット (別紙)
- ・HAPIC 報告書(概要&決算) (別紙)
- ・HAPIC 当日の様子(写真付き、別紙)
- ・HAPIC ウェブサイト:<https://hapiconf.com/>
- ・学生アイデアコンテストウェブサイト:<https://haptic-contest.jp/>
- ・HAPIC 報告書掲載のお知らせ
<https://www.janic.org/blog/2024/03/14/haptic2023-report/>

以上

HAPIC2023

開催概要報告



2024 年 2 月
NPO 法人 国際協力 NGO センター (JANIC)

1. HAPIC2023 開催概要



■タイトル：課題解決の先へ。HAPIC – HAPPINESS IDEA CONFERENCE

■目的：グローバルな社会課題解決に関わるアクターが集い、学び、議論し、新しいアイデアやパートナーとの出会いを通して、社会課題解決を促進すること。

■開催日時： 2023 年 11 月 11 日（土）10:00-19:30

■会場： KFC Hall & Rooms（東京都墨田区横網 1-6-1 国際ファッションセンタービル）
オンライン：ライブ配信およびアーカイブ配信

■特徴： ①グローバル社会課題解決の最前線で活躍するスピーカーによる 21 のセッション
②NGO・NPO と支援・連携・サービスを提供する組織のブース出展
③レセプション、交流スペースなど 3 日間を通じたネットワーキング
④学生アイデアコンテスト表彰

■参加費：

チケット種類	超早割 9/1～ 10/4	早割 10/5～ 10/31	通常 11/1～	団体割 5～9名 (1名あたり)	団体割 10名以上 (1名あたり)
JANIC正会員	¥5,000	¥6,000	¥7,000	¥5,500	¥4,500
一般	¥8,000	¥9,000	¥10,000	¥8,500	¥7,500
学生(大学生・大学院生) ※高校生以下は無料	¥1,000	¥2,000	¥3,000	-	-
オンラインチケット	¥5,000／学生(大学生・大学院生)¥1,000				
レセプション	¥3,500				

■参加者数：389 人（リアル会場参加 166 名、オンライン参加者 223 人*）

*オンラインは延べ人数

■セッション登壇者数：67 人

■助成：MRA ハウス、大竹財団、日本労働組合総連合会、庭野平和財団、立正佼成会一食平和基金

■協賛：ETIC.、NPO サポートセンター、ジャパン・プラットフォーム、真如苑、Syncable（STYZ）、セイエン、日本非営利組織評価センター、日本ファンドレイジング協会、パデコ、妙智會

■協力：EMA、らーのろじー、ライノ・コネクト

■後援：SDGs 市民社会ネットワーク、外務省、自治体国際化協会、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）、新公益連盟、日本 NPO センター

■主催：国際協力 NGO センター（JANIC）

2. プログラム/セッション

- (1) セッション数：21 (HAPIC2022：31、HAPIC2021：29、HAPIC2020：16)
 (2) レセプション、学生アイデアコンテスト実施



3F

KFC Hall

KFC Hall Annex

学生 アイデアコンテスト

3F KFC Hall

10:00~11:00 オープニングセッション

I 紛争地で活躍するNGOリーダーが見つけた平和のつくり方

紛争地で活動するNGOのリーダーが最前線で平和のために何を考え実践しているかを、ジャーナリストと対話し合います。

①永井 隆志 (NPO法人アセプト・インターナショナル 代表理事)
 ②高井 隆志 (NPO法人アセプト・インターナショナル 代表理事)
 ③理事 永井 隆志 (NPO法人アセプト・インターナショナル 代表理事)
 ④理事 永井 隆志 (NPO法人アセプト・インターナショナル 代表理事)

11:30~12:30 ブレイクアウトセッション

II Synergy Talks:企業とNGOの対話でつくる公正な未来

企業とステークホルダーの対話を促すためにTHINK Lobbyが開発したセルフチェックリストをもとに、「公正な社会」のために企業ができることや世界の動向、日本の企業が取り組むべき課題について考えます。

①代表理事 (THINK Lobby CSJプロジェクトリサーチ) 永井 隆志
 ②代表理事 (THINK Lobby CSJプロジェクトリサーチ) 永井 隆志
 ③代表理事 (THINK Lobby CSJプロジェクトリサーチ) 永井 隆志
 ④代表理事 (THINK Lobby CSJプロジェクトリサーチ) 永井 隆志

12:45~13:30 ランチャイムセッション

III 成長戦略としてのNGO-企業連携を考える -双方担当者からの声-

企業とNGOの接点や関係性の実現はどのようなものなのでしょうか。企業側、NGO側からの本音を聞くことで、今後の双方の協力について考察します。

①代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ②代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ③代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ④代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志

13:45~14:45 ブレイクアウトセッション

IV ビジネスと人権の課題に対するコレクティブ・インパクトでの挑戦 ~政府、企業、NGOの強みを活かす連携のあり方とは

カカオチョコレート産業における実践を取り上げながら、多セクターの効果的な連携のあり方や今後の可能性について語り合います。

①代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ②代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ③代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ④代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志

15:15~16:15 ブレイクアウトセッション

V 「インパクト」をどうとらえるか ~社会価値と企業価値の両立を目指して~

企業とNGOがそれぞれ連携を通じSDGsへのインパクトをどうとらえることができるのか、を考えます。

①代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ②代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ③代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ④代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志

16:45~17:30 クロージングセッション

VI 対話の力~内なる変化が世界を変える~

HAPICでの学び、出会いや自分の成長につなげ、どのように組織、社会の課題解決の取り組みにつなげていくか、「対話の力」とは何か、について参加者と一緒にじっくりと語り合います。

①代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ②代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ③代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ④代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志

3F KFC Hall Annex

11:30~12:30 ブレイクアウトセッション

III テクノロジーって難しい? NGOリーダーにITの利活用を聞いてみた

NGOのリーダーはITをどのように活用しているのか、最先端の情報はなく、NGOのリーダーたちの日常的な使い方を向き合い方について、対話形式でお話しします。

①代表理事 (NPO法人コンフォートワールド 代表理事) 永井 隆志
 ②代表理事 (NPO法人コンフォートワールド 代表理事) 永井 隆志
 ③代表理事 (NPO法人コンフォートワールド 代表理事) 永井 隆志
 ④代表理事 (NPO法人コンフォートワールド 代表理事) 永井 隆志

13:00~13:40 HAPIC学生アイデアコンテスト表彰式

HAPIC学生アイデアコンテスト表彰

テーマ「スマートフォンを活用した平和へ導くアイデア」は?に応募いただいた全アイデア作品の中から最優秀賞、優秀賞、特別賞に選ばれた3名(及びグループ)の表彰を行います!

①代表理事 (NPO法人コンフォートワールド 代表理事) 永井 隆志
 ②代表理事 (NPO法人コンフォートワールド 代表理事) 永井 隆志
 ③代表理事 (NPO法人コンフォートワールド 代表理事) 永井 隆志
 ④代表理事 (NPO法人コンフォートワールド 代表理事) 永井 隆志

13:45~14:45 ブレイクアウトセッション

III ITツールを活用したNGOの組織内DX

NGO向けサービスを提供している企業・団体が、そのサービスをどんなNGOに使ってほしいか?というサービスにしたいか?などについて語り合います。

①代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ②代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ③代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ④代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志

15:15~16:15 ブレイクアウトセッション

III 閉鎖か、拡大か:アジアにおける市民社会スペースの現在 ~カンボジアとパキスタンのCSOから学ぶ~ (Closed or expanded: civic space in Asia today)

市民社会組織が自由に活動できる空間を指す「市民社会スペース」の縮小が、世界的な問題です。アジアのNGOと共に民主主義に欠かせない市民社会スペースと選挙について考えます。本セッションは英語にて実施し、通訳はございません。

①代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ②代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ③代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志
 ④代表理事 (株式会社EWA 代表理事) 永井 隆志

18:00~19:30 レセプション

リアルにつながる! HAPIC2023レセプション

立食形式で、カジュアルな雰囲気の中、新たな出会いや再会を楽しむことができます。立食形式で、カジュアルな雰囲気の中、新たな出会いや再会を楽しむことができます。立食形式で、カジュアルな雰囲気の中、新たな出会いや再会を楽しむことができます。

10:00~19:30 HAPIC学生アイデアコンテスト作品展示

最終審査まで残ったアイデア作品を展示します!



タイムテーブル



11F Room 111

11:30~12:30 ブレイクアウトセッション 平和

I 支援事業の現場で宗教ができること
～開発・紛争・災害 支援で平和をつくる

海外や日本における宗教者との連携事例を題材に、支援事業の現場で宗教の果たす役割とは何かについて考えます。

- ① 国際連合(WFP)日本委員会 事務局員、アジア中東平和公使(ACPF) 事務局員
- ② 大連発信(公益社団法人ジャパン・国際ボランティア協会(JIVA) 専門アドバイザー 曹月英(中国研究センター 講師))
- ③ 高島千恵子(NPO法人ワールドビジョン・ジャパン 支援事業第1部 人権・難民事業課副課長/ニアプログラムコーディネーター)
- ④ 大森由一(世界銀行 東アジア局 上級外部関係官)
- ⑤ 高下節恵(NPO法人ワールドビジョン・ジャパン 信託(開発経済))



12:45~13:30 ランチャイムセッション

II 支援の現地化
～ローカライゼーションをできることから～

支援の現地化はNGOの重要な課題です。支援活動の効果を最大化し、持続可能な変化を促進するための現地リソースの活用、ローカルなコミュニティとの強力な連携の実現を考えます。

- ① 津田悦子(NPO法人ジャパン・プラットフォーム 事業推進副部長 事業評価課長 事務支援課長)
- ② 藤井美奈子(公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 海外事業部長)
- ③ 山口千晶(NPO法人難民を助ける会(AAR Japan) 事務局員)
- ④ 東島彰子(NPO法人パシフィック・センター・ジャパン 事務局員)



13:45~14:45 ブレイクアウトセッション 平和

III いま起きている戦争にどう向き合うか？
人道支援、軍事支援と私たち

イラク戦争、アフガニスタン戦争時のNGOの動きも振り返りながら、戦争や紛争に対してNGOが果たすべき役割や可能性について考えます。

- ① 今井金樹(NPO法人日本国際ボランティアセンター(JVC) 代表理事)
- ② 藤岡美奈子(公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)
- ③ 山崎文子(NPO法人国際ボランティアセンター(JVC) インターン、上智大学学生)



15:15~16:15 ブレイクアウトセッション 平和

IV 民主主義は私から始まる
～ウクライナから考える民主主義と
寛容の中で生きる方法～

ウクライナにおける戦争の経験や、世界各国におけるウクライナ難民の受け入れの必要性を例に、民主主義と寛容の意味と重要性を考えます。

※本セッションは主に英語にて実施し、通訳はございません。

- ① アンナ・ベリツカヤ(ボランティア・インターナショナル アドボカシーグループ)
- ② 高島千恵子(ボランティア・インターナショナル アドボカシーグループ リーダー)
- ③ 山崎文子(ボランティア・インターナショナル アドボカシーグループ)
- ④ 青林有希(THINK Lobby 代表)



11F Room 113

11:30~12:30 ブレイクアウトセッション 共生社会

I 外国人と共に生きる社会へ
～多文化共生を推進する
官民連携のあり方とは？

日本の外国人受け入れをめぐる状況が大きく変化する中で、官民連携による多文化共生社会の形成をどのように進めていけば良いのかを、地域の事例も交えて議論します。

- ① 東野史(総務省 自治行政局 国際室)
- ② 田村太郎(一般財団法人ダイバーシティ・研究所 代表理事)
- ③ 藤原みどり(NPO法人国際活動市民会(ICINGA) コーディネーター)
- ④ 石川はり(財団法人国際支援協会 代表理事)
- ⑤ 山崎健治(人と人の幸せ開発研究所 代表)



12:45~13:30 ランチャイムセッション

II 対話セッション:
ジェンダーについて話しあおう!
私たちの生活の中の社会規範とは

ジェンダー(社会・文化的な性差)とジェンダー規範(ジェンダーの違いにより期待される振る舞いのルール)について考え、誰もが生きやすいより平等な社会をつくるためのアイデアを出していきます。

- ① 竹下有司(NPO法人シャプラニール・市民による海外協力のみ、キバール事務局)
- ② 伊藤麻(同志社大学 国際教育センター)
- ③ 藤田美奈子(財団法人ADRA Japan プログラム・オフィサー)



13:45~14:45 ブレイクアウトセッション 共生社会

III NGOのNext Step:
G7広島サミット/Civil(市民社会組織)
7サミットの課題分析とNGOの役割

現在の日本のNGOの役割をお話し、海外NGOの動向調査を通じて見たNGOが将来的に進むべき方向性や課題解決に向けて必要な能力開発の重要性について議論します。

- ① 小島野郎(NPO法人CWS Japan 事務局員)
- ② 木内直子(NPO法人ワールドビジョン・ジャパン 事務局員CT 運営委員)
- ③ 田内愛子(NPO法人国際ボランティアセンター(JVC) オフィサー THINK Lobby 代表)



15:15~16:15 ブレイクアウトセッション 共生社会

IV 「支援」という力を持つ者の責任
～みんなと私を守るために公正で
多様な社会に向けて

支援活動における性暴力や権力の誤用という問題に着目し、NGO(援助)業界のパワーシフト、社会規範、当事者の関わりを考えます。

- ① 藤田美奈子(財団法人ADRA Japan プログラム・オフィサー)
- ② 竹下有司(国際協力NGOシャプラニール・市民による海外協力のみ、キバール事務局)
- ③ 金谷由子(公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン チャイルド・セーフティ・デスク スポーク人)
- ④ 五十嵐麻子(NPO法人CWS Japan プログラム・マネージャー)



11F Room 115

11:30~12:30 ブレイクアウトセッション 気候変動

I 開発・安全保障で進む気候主流化:
開発NGOが取り残されないために

気候変動が国際的にも大きく議論スペースを占めるようになってきました。開発NGOと気候・環境NGOが共により強い日本の市民社会を形成するために、気候主流化の現実について深掘りします。

- ① 伊与田晶恵(国際連合NGO 350.org ジャパン・キャンペーン・マネージャー、東京大学大学院客員講師)
- ② 藤田美奈子(公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン アドボカシー・グループ 代表)
- ③ 高島千恵子(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 職員)
- ④ 山崎文子(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン ストリート)



12:45~13:30 ランチャイムセッション

II NGOスタッフの働き方のリアル
～働く環境改善と採用難のなぜ?

NGOの働き方は大きく変わったはずなのに、求人の応募や採用につながらないのはなぜなのか?労働環境の改善や採用の悩み、工夫を共有し、今後のアクションとなるヒントを探ります。

- ① 藤田晶恵(NPO法人バン・ブロー・ワールド グローバル・人事開発オフィサー)
- ② 加藤利美(NPO法人ワールド・ビジョン・ジャパン 人事・総務課 採用担当)
- ③ 伊藤有子(NPO法人日本国際ボランティアセンター(JVC) 事務局員)



13:45~14:45 ブレイクアウトセッション 気候変動

III 気候危機×DRR×多文化共生
～誰にとっても安心・安全な地域をつくる～

自然災害からの被害を軽減するためのJICA、NGO、行政の取り組みを知り、誰もが安心して安全に暮らせる地域づくりへ向けた課題、さらなる連携の可能性について考えます。

- ① 松田重秀(JICA 国内事務市民参加推進課長)
- ② 村田隆次(東京大学 生活文化センター 都市生活課 課長代理(活動支援国際課員))
- ③ 藤井裕子(シャプラニール・市民による海外協力のみ、地域アクション推進グループ・リーダー)
- ④ 小島野郎(シャプラニール・市民による海外協力のみ、事務局員)



15:15~16:15 ブレイクアウトセッション 気候変動

IV 新しいNGO&若者のパートナーシップ:
セクターの将来に向けたワークショップ

NGOと若者の力を最大限に活かすパートナーシップを築くために、ユースが主体的に行動できる環境整備アイデアをディスカッションし、セクターの将来に向けた取り組みを検討します。

- ① 山口健介(一般社団法人環境パートナーシップ推進 マネージャー)
- ② 高橋美奈子(50th Anniversary Japan)
- ③ 藤田千恵(国際連合NGOグリーン・ビジネス・ジャパン コミュニティ・アウトリーチ担当)
- ④ 山崎文子(明治大学学生、EFFT day オフィス・アシスタント、ワタシのタイ事務員)
- ⑤ 山口有希(情報科学に学ぶ女性向けにシャプラニール・プラットフォーム(JPS) 代表理事)

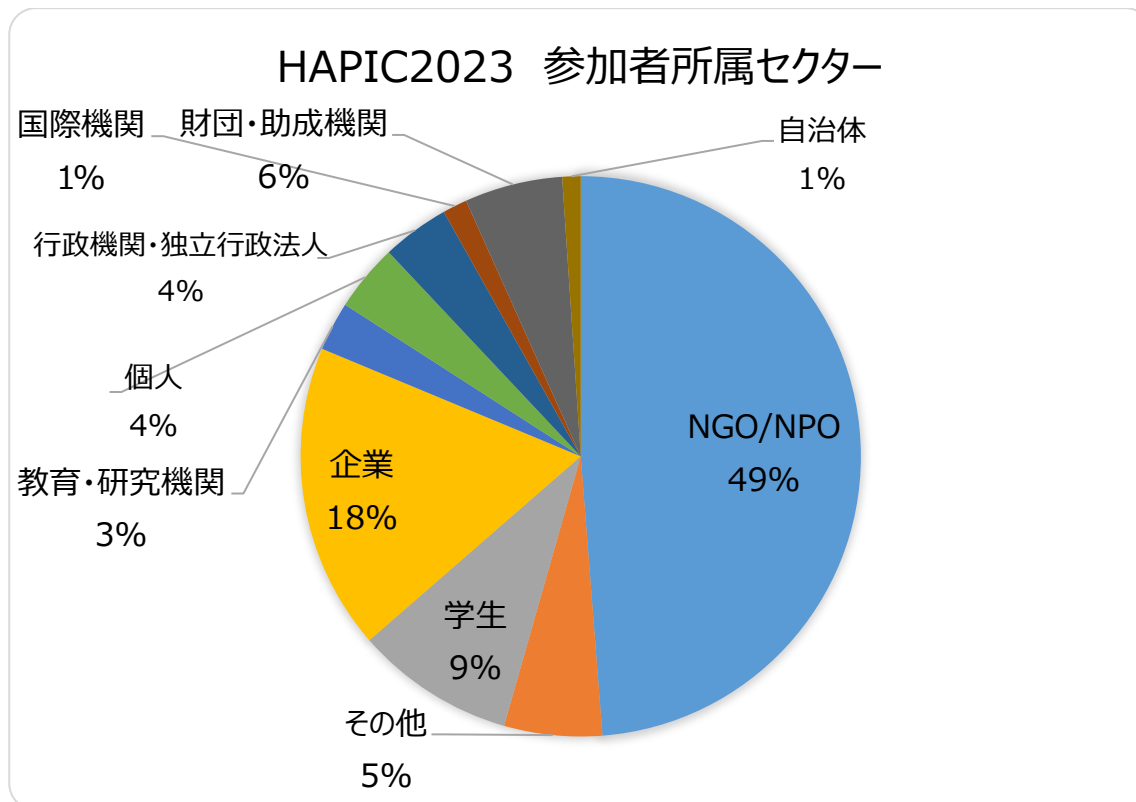


3. 参加者概要

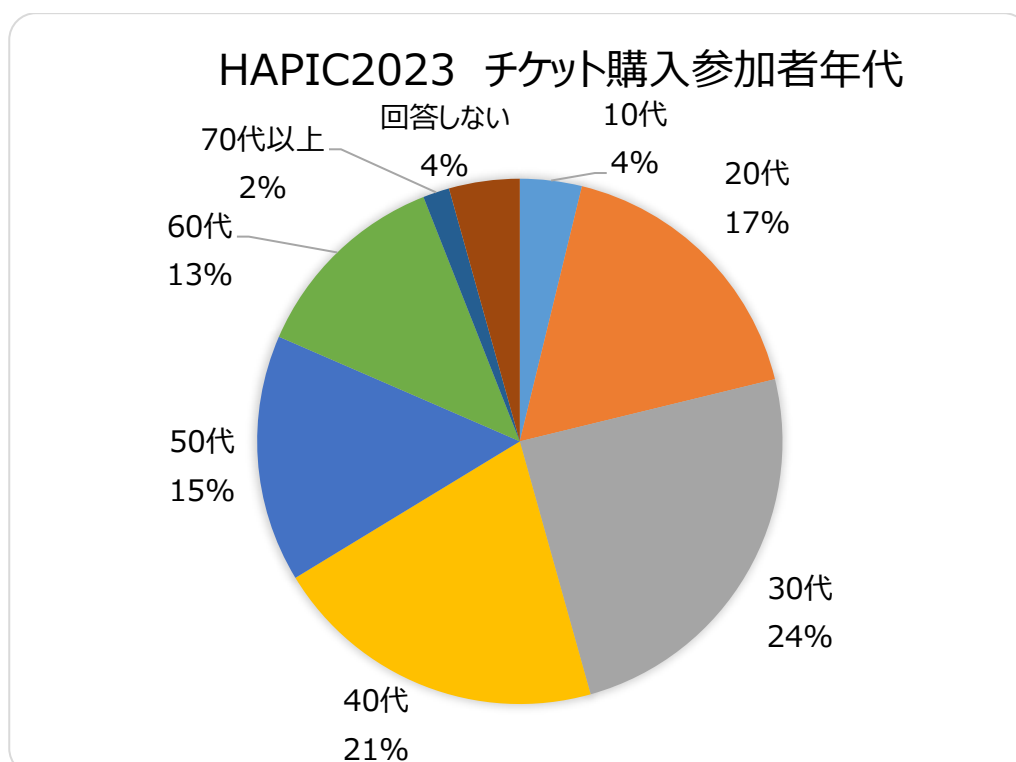
▶ 参加者数：389 人（リアル会場参加 166 名、オンライン参加者 223 人*）

*オンラインは延べ人数

▶ 参加セクター分類：NGO/NPO（49%）、企業（18%）、政府・国際機関（4%）、学生（9%）、研究機関・大学（3%）、財団（6%）、自治体（1%）、メディア他からの参加があった。



▶ 参加者年代



4. 参加者・登壇者アンケート結果

	参加者	登壇者・出展者
回答期間	2023/11/13-2023/12/	
回答方法	オンライン（Google フォーム）での回答	
設問数	28 問	26 問
回答率	18% (52 名/289 名)	40% (40 名/100 名)

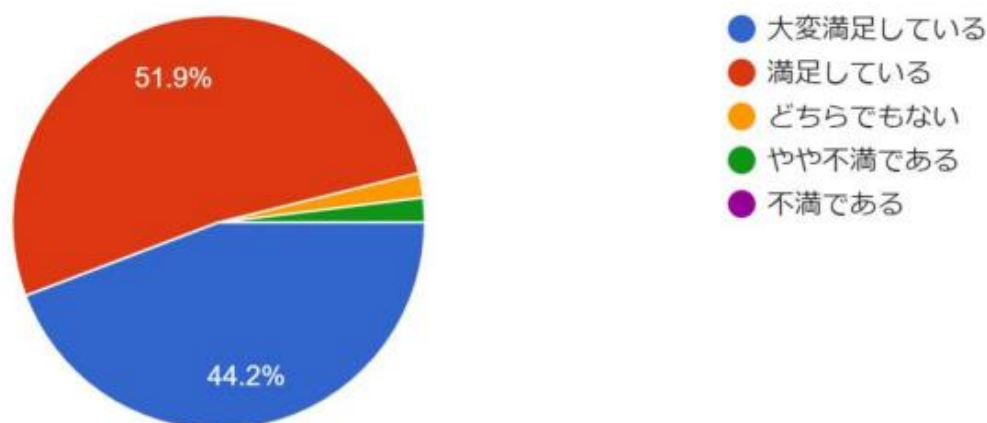
①参加者アンケート結果

■HAPIC への全体満足度 | 参加者アンケート

HAPIC に満足したと回答した人は 96.1%（前回 76%）（回答者 52 名中 49 名）であった。

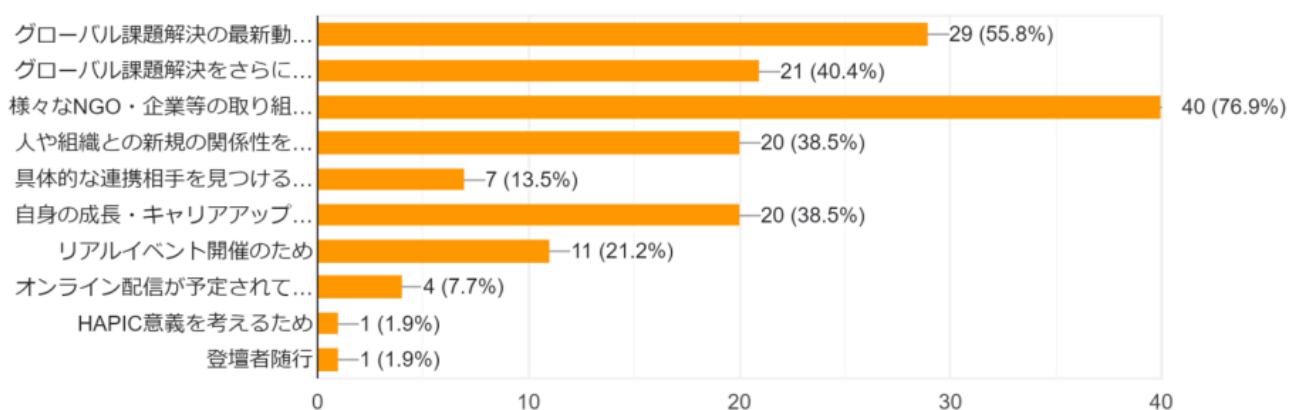
「大変満足している」44.2%（前回 21.8%）、「満足している」51.9%（前回 54.5%）。

「どちらでもない」「やや不満である」「不満である」は 3.9%（前回 23.6%）。



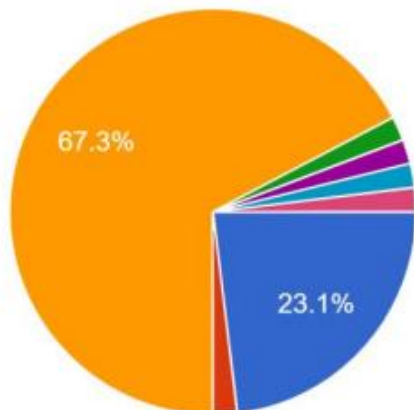
■HAPIC 参加目的 | 参加者アンケート

参加目的は、「様々な NGO の取り組みを知るため」76.9%（前回 58.2%）、「グローバル課題解決の最新動向を知るため」55.8%（前回 80.0%）、「グローバル課題解決をさらに前に進めるアイデアを得るため」76.9%（前回 60.0%）、「人や組織との新規の関係性を構築するため」38.5%（前回 21.8%）、「自身の成長・キャリアアップのため」38.5%と続いた。



■セッション数・セッション時間 | 参加者アンケート

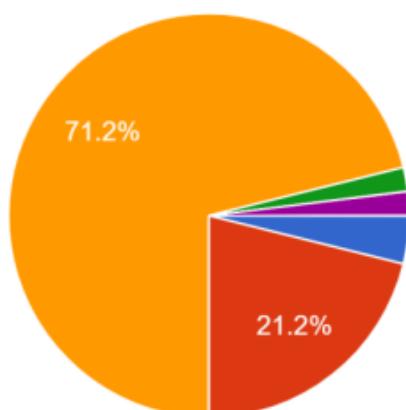
- セッション数：21（前回 31）
「ちょうどよい」 67.3%（前回 69.1%）
「多い」 23.1%（前回 29.1%）



- 多い
- 少ない
- ちょうどいい
- オンライン参加で、アーカイブ視聴前のため不明
- 判断はつきかねます。
- 実行者と参加者によって異なると思われる。
- セッションが多いのは魅力的だが、受けた講義が被ってしまうため、2日に...

セッションが多いのは魅力的だが、受けた講義が被ってしまうため、2日に分ける・テーマを絞るなどを検討していただけるとありがたいです

- 時間：基本 60 分
「ちょうどよい」 71.2%（前回 65.5%）
「短い」 21.2%（前回 32.7 %）



- 長い
- 短い
- ちょうどいい
- 均一ではなく、長いのと短いのを設けるのが良いと思います。
- ディスカッション時間は短かったかもしれない。

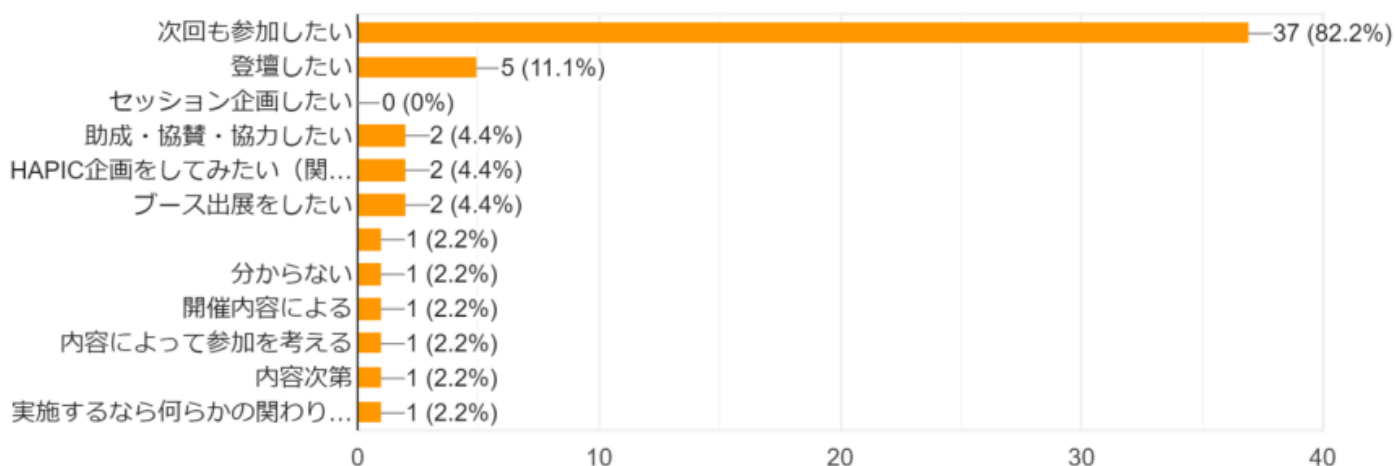
■HAPIC 参加で実現できたこと | 参加者アンケート

- ・一番実現できたこと：「最新情報や必要な知識の入手」40.4%、「次世代・新しい人や組織とのネットワーキング」23.1%、「課題解決に取り組むモチベーションの向上」25%



■次回 HAPIC への関わり方 | 参加者アンケート

「次回も参加したい」82.2%（前回 95.7%）



参加者アンケートコメント：

■HAPIC への全体満足度とその理由

- ・対面であることも、とても良かったです
- ・どのセッションも活動する上でのヒントが必ずあったので。
- ・普段出会うことの少ないNGOの方とお話できたため。
- ・新たな事を多く学ぶことができました。今後の物事の考え方に影響すると思います。
- ・NGOさんとの接点の持ち方に悩んでいたが、企業でも関係なく意見を出すことで、今後連携できる可能性について確認することができたため。
- ・会場ごとのセッション時間が統一されていれば良かったです。
- ・幅広いセクターからの登壇者
普段考えないこと、触れない情報に触れることができたとともに、新たな繋がりができた。
- ・"コロナ禍の影響により、この規模でできる催しはまだ少ないなか、開催されたこと。登壇された方々が多様な人たちで、年代やジェンダーなどのバランスは悪くなかったこと。もっとも拝聴したかったセッションがオンラインで参加できなかったのが少し残念です。"
- ・大変温かみのある空間で、学び、出会い、とてもうれしくありがたい者でした。

■改善すべき点

- ・若者にとって参加しづらい価格設定に感じました。
- ・JANICの方ともお話しする時間がほしかったかもしれません！
- ・セッションのボリュームと時間配分

オンライン参加者は、後日の配信でいいかもしれません。

参加費を下げると学生、年金生活者、ほか、より参加しやすいかもしれないと感じました。

参加料がより安価にしてくれると所属団体の他の職員にも参加を強く推奨できる

・会場が少しアクセスしづらいように感じた・同じセッション参加者ともう少し交流する機会があれば嬉しかった（レセプションがその役目かと思いますが、時間的に参加が叶わなかったため、セッション内で話す時間があると尚ありがたい）

■HAPIC 全体へのコメント

・運営などお疲れ様でした。会場開催は久しぶりで、ハイブリッドも大変だったと思いますが、とてもスムーズに参加できました。ありがとうございました。

・久々の対面イベント、ご準備大変だったかと思います。よい時間をありがとうございました。

・オープニングセッションは、紛争に関連する活動をしてきた方々のお話が現実的で臨場感がありました。初めて聞く方々、特に若い人達が、活動を始めやすいように、自分達も悩んできたし、今も日々、苦労しながら、疲弊しながら、でもやってる、という、そっとはげます感じで、とても良かったです。企画、実施、ありがとうございました。

・大変貴重でありがたいイベントです。今後も是非継続していただければ、是非参加させていただきたいと思います。

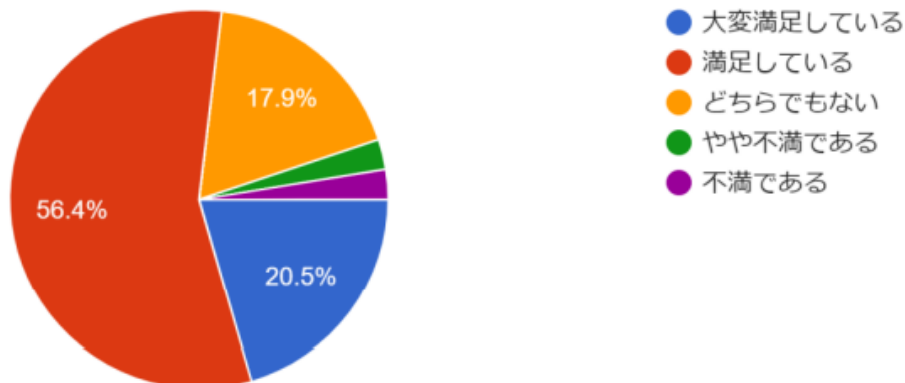
・第一線で活躍されている皆さんのクオリティの高いセッションがたくさん。新しい出会いだけでなく、1年に一度の支援業界の同窓会的な位置づけにもなっているように思います。

②登壇者・出展者アンケート結果

■HAPIC への全体満足度 | 登壇者アンケート

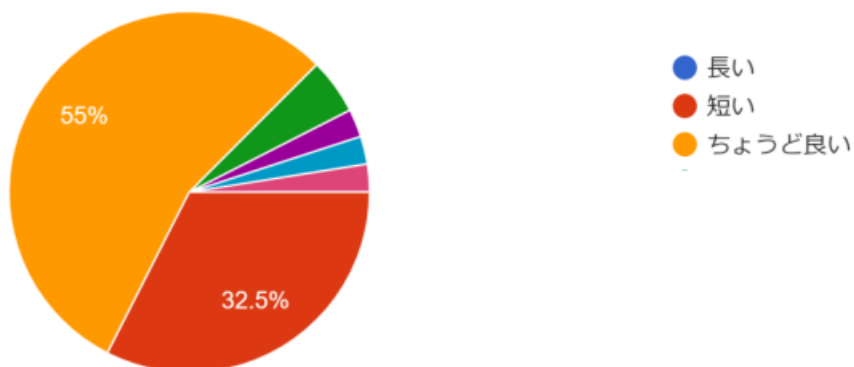
HAPIC に満足したと回答した人は 86.9（前回 85.7％）。

「大変満足している」20.5％（前回 20.0％）、「満足している」56.4％（前回 65.7％）、
「どちらでもない」17.9％（前回 14.3％）。



■1セッション当たりの時間

「ちょうどよい」55％（前回 71.4％）、「短い」32.5％（前回 28.6％）、「長い」0％（前回 0％）



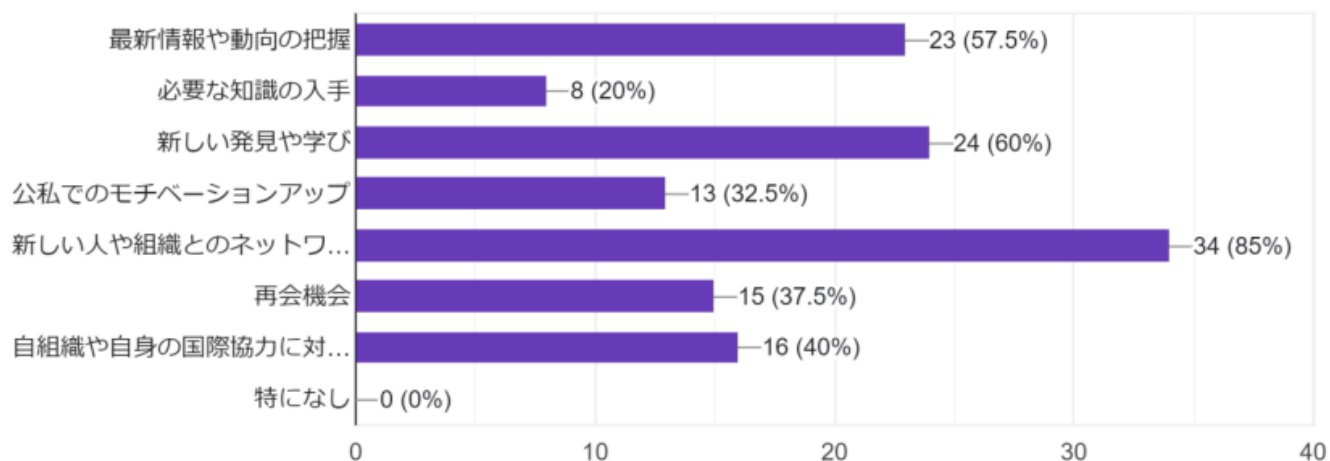
■セッション企画・登壇を通して期待した事

「組織間・セクター間の連携促進」57.5%、「NGO/NPO セクターの成長・改善」17.5%、
「国際協力関係セクターの成長・改善」15%と続いた。



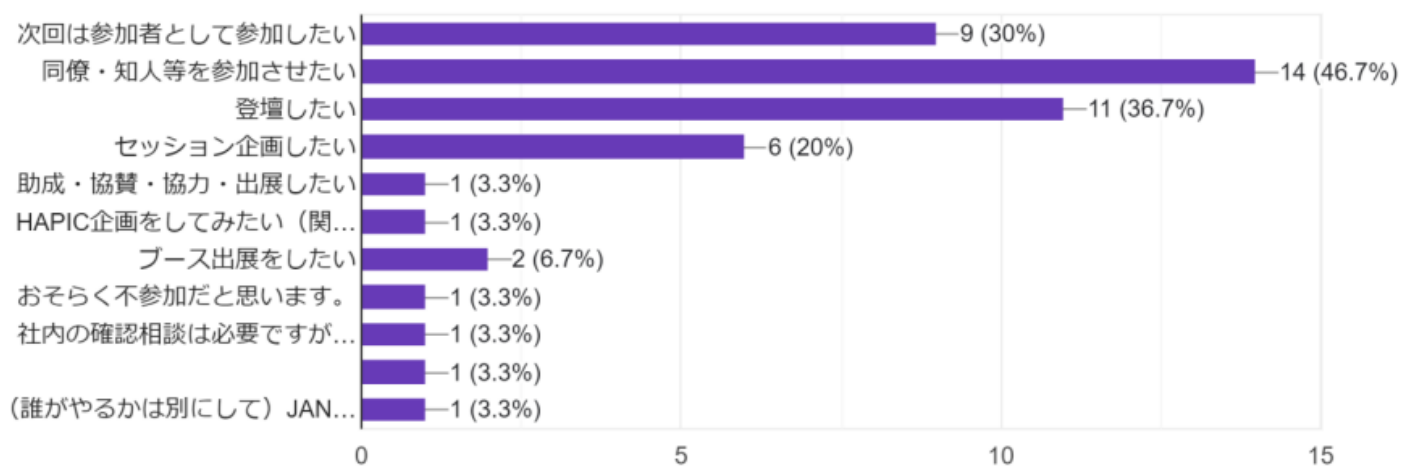
■登壇セッションを通して視聴者が得られると思われること（複数回答）

「新しい人や組織とのネットワーキング」85%（前回 45.7%）、
「新しい発見や学び」60%（前回 74.3%）、
「最新情報や動向の把握」57.5%（前回 60%）、
「自組織や自身の国際協力に対する意義・役割などの再確認」40%（前回 54.3%）



■次回 HAPIC への関わり方（登壇者/出展者）

「同僚・知人等を参加させたい」46.7%（前回 20.0%）
「登壇したい」36.7%（前回 26.7%）
「次回は参加者として参加したい」30%（前回 26.7%）
「セッションを企画したい」20.2%（前回 26.7%）



登壇者アンケートコメント抜粋：

■セッション企画・登壇を通して期待した事

- ・開発協力NGOの活動における気候変動要素の統合
- ・様々なセクター間のつながり、連携の促進
- ・市民社会と企業との対話の促進
- ・NGO/NPOの組織運営上の共通課題の把握、セクターとして連携して取り組むべきイシューの確認など
- ・NGOの多文化共生領域への参画
- ・SDGが進み、インパクト投資が進む中で、国際協力のステージは明確に次に来ていると思っています。NGOの役割も世界的にも進化しているので、その息吹を感じたかった

■HAPIC への全体満足度とその理由をおしえてください

- ・予想以上に楽しくできました。
- ・現場で取り組んでいるNGOの方の視点で、世界情勢や日本政府の動きを把握できました。
- ・もうちょっと金額が安くても良かったと思います！ただとても有意義で代えがたい経験でした
- ・久しぶりの対面型の大きな会議で、多くの方々と再会したり、新たな出会いの場として大変貴重な機会でした。セッションを通じた学びや気づきも得られました。

■HAPIC 全体に関して、良かった点や改善すべき点、ご要望等

- ・限られた時間内に複数のセッションが行われ、様々な関心に対応していると思うが、同時に開催するセッションが多すぎると感じた。参加者が少ないセッション、短時間だけ参加してセッション会場を回遊する参加者が見られた。もう少しセッション数を減らして参加者がじっくり参加できた方がより大きなインパクトにつながると思った。
- ・ロジ的な面はおおむねスムーズでした。オンライン登壇者との音声共有に少し課題がありました。
- ・登壇者と名刺交換したくてリアル参加しましたが、登壇者がオンライン参加のケースや、リアルでもセミナー後にすぐ移動されてしまったりと、ネットワーキングができなかったのがやや残念です。
- ・ハイブリッドでもあり、リアル参加者数がそれほど多くないので、分科会の会場はもっと狭くてもいいと思った。あまり広いと、参加者が少ない印象も持ってしまうので。

5. 収支決算

HAPIC2023収支決算書

2024年2月14日

収入

項目	予算額	決算額	内容
参加費	2,235,000	1,033,000	JANIC正会員、学生、早期申込割引あり
企業協賛	3,000,000	450,000	企業協賛
助成金 非営利団体協賛	4,000,000	5,281,000	助成金、非営利団体協賛・寄付
JANIC自主財源	845,000	3,857,122	
合計	10,080,000	10,621,122	

支出

項目	予算額	決算額	積算内訳
会場関係費	2,850,000	3,166,460	オンライン会場、オンラインツール、業務委託費
広報費	1,150,000	1,146,660	ウェブ制作、広告費
謝金・旅費	1,150,000	961,000	登壇者謝金、通訳謝金、事務局交通費
運搬費・雑費	300,000	103,002	リサーチ経費、チケット販売手数料、振込手数料、消耗品費等
人件費	4,630,000	5,244,000	JANIC職員人件費
合計	10,080,000	10,621,122	

収支差額:	0
-------	---

PROGRAMS



セッション

グローバルな社会課題解決の最前線で活躍するNGOや企業、有識者によるトークセッションやパネルディスカッションを開催します。



交流・ワークショップ

NGOや企業、学生が世代とセクターを超えて出会う、交流やキャリア相談などのネットワーキング企画を展開します。



ブース展示

NGO・NPOと連携・サービス提供をされたい企業による出展・展示を行います。



学生アイデアコンテスト

若い世代の社会課題解決アイデアの紹介や、応募アイデアの入賞者を表彰するアワードを開催します。



01

11/11 Sat 10:00-11:00

3F KFC Hall

オープニングセッション

紛争地で活躍するNGOリーダー
が見つけた平和のつくり方
～今、平和のためにできること～

永井陽右

NPO法人アクセプト・インターナショナル 代表理事

瀬谷ルミ子

NPO法人Reach Alternatives (REALs) (リアルズ(リーチオルタナティブズ)) 理事長
JCCP M株式会社 取締役

鬼丸昌也

NPO法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事

堀潤

ジャーナリスト
NPO法人8bitNews 代表理事
株式会社GARDEN 代表



パートナーシップ

02

11/11 Sat 11:30-12:30

3F KFC Hall

ブレイクアウトセッション

Synergy Talks: 企業とNGOの対話でつくる公正な未来

敦賀和外

THINK Lobby CSJプロジェクトリサーチャー

土井陽子

THINK Lobby CSJプロジェクトコーディネーター

若林秀樹

THINK Lobby 所長

米良彰子

世界の医療団日本 事務局長

葉山木綿

株式会社IHI 人事部 DE&Iグループ 主査



パートナーシップ

03

11/11 Sat 13:45-14:45

3F KFC Hall

ブレイクアウトセッション

ビジネスと人権の課題に対する
コレクティブ・インパクトでの挑戦
～政府、企業、NGOの強みを活か
す連携のあり方とは

飯田智晴

株式会社ロッテ サステナビリティ推進部 企画課 課長

鶴尾雅隆

認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 代表理事

白木朋子

特定非営利活動法人ACE 副代表・共同創業者

松井宏樹

外務省 総合外交政策局人権人権道課 企画官

山下契

独立行政法人国際協力機構(JICA) ガバナンス・平和構築部法・司法チーム 課長



パートナーシップ

04

11/11 Sat 15:15-16:15

3F KFC Hall

ブレイクアウトセッション

『インパクト』をどう捉えるかー社会
価値と企業価値の両立を目指してー

伊藤健

特定非営利活動法人ソーシャルバリュー
ジャパン 代表理事
慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科
特任准教授

赤堀久美子

リコー・ジャパン株式会社 経営企画本部コー
ポレートコミュニケーションセンター SDGs
推進グループ グループリーダー
国際協力NGOセンター 理事

小林舞

株式会社博報堂 ブランド・イノベーションデ
ザイン局 イノベーションプランニングディレク
ター

岩附由香

特定非営利活動法人ACE 代表
国際協力NGOセンター 副理事長



テクノロジー・他

05

11/11 Sat 11:30-
12:30

3F KFC Hall Annex

ブレイクアウトセッション

テクノロジーって難しい? NGOリ
ーダーにITの利活用を聞いてみたー

荒井昭則

特定非営利活動法人コンフロンティア
代表理事

棚田雄一

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジ
ャパン 専務理事・事務局長

鬼丸昌也

認定NPO法人テラ・ルネサンス創設者・理
事
NPO法人国際協力NGOセンター 理事長

岩附由香

特定非営利活動法人ACE 代表
NPO法人国際協力NGOセンター 副理事長



テクノロジー・他

06

11/11 Sat 13:45-
14:45

3F KFC Hall Annex

ブレイクアウトセッション

ITツールを活用したNGOの組織
内DX

井上祐作

株式会社STYZ 執行役員CTO
Syncable 事業責任者

小堀悠

(特活)NPOサポートセンター 常務理事・事
務局長

瀬上倫弘

公益財団法人日本非営利組織評価センター
マネージャー

荒井昭則

特定非営利活動法人コンフロンティア
代表理事



テクノロジー・他

07

11/11 Sat 15:15-16-15

3F KFC Hall Annex

ブレイクアウトセッション

閉鎖か、拡大か：アジアにおける市民社会スペースの現在
～カンボジアとパキスタンのCSOから学ぶ～ (Closed or expanded: civic space in Asia today) (言語:英語)

ジョツナ・モハン (Jyotna Mohan)
アジア民主主義連盟 地域コーディネーター
(Asia Development Alliance, Regional Coordinator)

マルク・ピニョル・ロヴィラ (Marc Piñol Rovira)

アジアセンター 研究マネージャー (Asia Centre, Research Manager)

ジア・ウル・レーマン (Zia-ur-Rehman)

パキスタン開発連盟 代表 (Pakistan Development Alliance, National Chair)



平和

08

11/11 Sat 11:30-12:30

11F Room111

ブレイクアウトセッション

支援事業の現場で宗教ができること
～開発・紛争・災害 支援で平和をつくる～

篠原祥哲

WCRP日本委員会 事務局長
アジア宗教者平和会議 (ACRP) 事務総長

大菅俊幸

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (SVA) 専門アドバイザー
青洞宗総合研究センター講師

西島恵

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 支援事業第1部人道・開発事業第3課
シニア・プログラムコーディネーター

大森功一

世界銀行 東京事務所 上級対外関係担当官

長下部穰

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 信仰と開発担当



平和

09

11/11 Sat 13:45-14:45

11F Room111

ブレイクアウトセッション

いま起きている戦争にどう向き合うか？ 人道支援、軍事支援と私たち

今井高樹

NPO法人日本国際ボランティアセンター (JVC) 代表理事

藤岡美恵子

法政大学大学院兼任講師

細川未智

NPO法人国際ボランティアセンター (JVC) インターン、上智大学学生



平和

10

11/11 Sat 15:15-16:15

11F Room111

ブレイクアウトセッション

民主主義は私から始まる～ウクライナから考える民主主義と寛容の中で生きる方法～(言語:英語)

アンナ・シャルホロドウスカー

プラン・インターナショナル アドボカシーグループ

長島美紀

プラン・インターナショナル アドボカシーグループ リーダー

山形文

プラン・インターナショナル プログラム部シニアオフィサー

若林秀樹

THINK Lobby 所長



共生社会

11

11/11 Sat 11:30-12:30

11F Room113

ブレイクアウトセッション

外国人と共に生きる社会へー多文化共生を推進する官民連携のあり方とは？

草壁京

総務省 自治行政局 国際室長

田村太郎

一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事

新居みどり

NPO法人国際活動市民中心(CINGA) コーディネーター

石川えり

認定NPO法人難民支援協会 代表理事

山路健造

人とヒトの幸せ開発研究所 代表



共生社会

12

11/11 Sat 13:45-14:45

11F Room113

ブレイクアウトセッション

NGOのNext Step: G7広島サミット/Civil(市民社会組織)7サミットの課題分析とNGOの役割

小美野剛

特定非営利活動法人CWS Japan 事務局長

木内真理子

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 事務局長
C7 運営委員

堀内葵

(特活)国際協力NGOセンター シニアアドボカシーオフィサー
市民社会シンクタンク「THINK Lobby」 副所長



共生社会

13

11/11 Sat 15:15-16:15

11F Room113

ブレイクアウトセッション

『支援』という力を持つ者の責任
～みんなと私を守るために公正で
多様な社会に向けて

尾立素子

認定NPO法人ADRA Japan プログラム・オ
フィサー

竹下裕司

国際協力NGOシャブラニール＝市民による
海外協力の会 ネパール事務所長

金谷直子

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパ
ン チャイルド・セーフガーディング・スペシャ
リスト

五十嵐豪

特定非営利活動法人CWS Japan プログラ
ム・マネージャー (Programme Manager)



気候変動

14

11/11 Sat 11:30-
12:30

11F Room115

ブレイクアウトセッション

開発・安全保障で進む気候主流
化：開発NGOが取り残されないた
めに

伊与田昌慶

国際環境NGO 350.orgジャパン・キャンペー
ナー、東洋学園大学非常勤講師

堀江由美子

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパ
ン アドボカシー部 部長

金昌浩

オープンソサエティ財団 職員

山田太雲

モニター デロイト シニアスペシャリストリー
ド



気候変動

15

11/11 Sat 13:45-
14:45

11F Room115

ブレイクアウトセッション

気候危機×DRR×多文化共生
～誰にとっても安心・安全な地域
をつくる～

松元秀亮

JICA 国内事業部市民参加推進課長

村田陽次

東京都 生活文化スポーツ局 都民生活部 課
長代理(活動支援国際担当)

勝井裕美

シャブラニール＝市民による海外協力の会
市民アクション推進グループチーフ

小松豊明

シャブラニール＝市民による海外協力の会
事務局長



気候変動

16

11/11 Sat 15:15-16:15

11F Room115

ブレイクアウトセッション

新しいNGO&若者のパートナーシップ:セクターの将来に向けたワークショップ

江口健介

一般社団法人環境パートナーシップ会議 マネージャー

稲荷桃香

SRHRユースアライアンス メンバー

儀同千弥

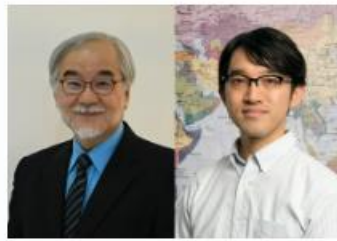
国際環境NGOグリーンピース・ジャパン コミュニティアクトリーチ担当

川崎彩子

明治学院大学生
FFFTokyoオーガナイザー
ワタシのミライ事務局

山口有紗

持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム(JYPS) 政策提言部



17

11/11 Sat 16:45-17:30

3F KFC Hall

クロージングセッション

**対話の力
～内なる変化が世界を変える～**

本間正人

NPO学習学協会 代表理事

鬼丸昌也

NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC) 理事長



18

11/11 Sat 12:45-13:30

11F Room111

ランチタイムセッション

支援の現地化～ローカライゼーションでできることから～

井出悦子

特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム 事業推進副部長 事業評価副部長 事業管理副部長兼任

藤井麻衣子

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 海外事業部長

古川千晶

特定非営利活動法人難民を助ける会[AAR Japan] 事務局長

米良彰子

特定非営利活動法人メドゥッサン・デュ・モンド ジャポン 事務局長



19

11/11 Sat 12:45-13:30

11F Room113

ランチタイムセッション

対話セッション:ジェンダーについて話し合おう!私たちの生活の中の社会規範とは

竹下裕司

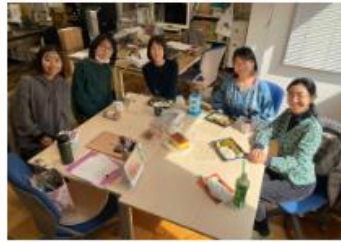
(特活)シャプラニール=市民による海外協力の会 ネパール事務所長

谷島緑

明星大学 国際教育センター

尾立素子

認定NPO法人ADRA Japan プログラム・オフィサー



20

11/11 Sat 12:45-13:30

11F Room115

ランチタイムセッション

NGOスタッフの働き方のリアル ～働く環境改善と採用難のなぜ?

儘田由香

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド グローバル人事担当オフィサー

加曾利みき

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 人事・総務課 採用担当

伊藤解子

特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター(JVC) 事務局長
特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC) 理事



21

11/11 Sat 12:45-13:30

3F KFC Hall

ランチタイムセッション

成長戦略としてのNGO-企業連携を考える -双方担当者からの声-

中山雅之

国士舘大学大学院 グローバルアジア研究科 教授

楯見次

株式会社EMA 代表取締役

丸原孝紀

株式会社東急エージェンシー SDGs プランニング・ユニット POZI サステナビリティ・プランナー/クリエイティブ・ディレクター

木内真理子

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 事務局長
C7 運営委員

PARTNERS

助成



一般財団法人
MRAハウス

一般財団法人
大竹財団



日本労働組合総連合会
(連合)



公益財団法人
庭野平和財団



立正佼成会
一食平和基金

協賛



NPO法人
ETIC



特定非営利活動法人
NPOサポートセンター



特定非営利活動法人
ジャパン・プラットフォーム



真如苑
真如苑



Syncable
(株式会社STYZ)



特定非営利活動法人
セイエン



公益財団法人
日本非営利組織
評価センター



認定NPO法人
日本ファンドレイジング協
会



株式会社
パデコ



妙智會

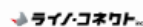
協力



株式会社
EMA



ラーのろじー
株式会社



ライノ・コネクト

後援

一般社団法人
SDGs市民社会ネットワーク

外務省

一般社団法人
グローバル・コンパクト・
ネットワーク・ジャパン
(GCNJ)

独立行政法人
国際協力機構

一般財団法人
自治体国際化協会

特定非営利活動法人
新公益連盟

認定NPO法人
日本NPOセンター